

長岡工業高等専門学校 令和7年度 年度計画実績報告

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(1) 入学者の確保 ①-1-1 公式ホームページの内容を点検し、中学生向け(保護者をも意識)のコンテンツの更新を図るとともに英語での情報発信力の強化を図る。 ①-1-2 市町村の中学校校長会や中学校への訪問活動を行うとともに、中学生と保護者向けの学校紹介資料を送付するなどの広報活動を行う。 ①-1-3 学内運営決定組織と連携し、社会や入試広報対象者に本校の歴史、教育機関としての魅力をアピールしていく。 ①-1-4 県外の本校志願者増を図るため、法人本部主催の国公立高専合同説明会に出展する。	① ホームページへの情報掲載により、中学生向けの情報を発信するとともに、中学校訪問等の広報活動を積極的に行った。	◎:既に達成している	
①-2-1 広報戦略室と教務委員会が連携して学校説明会の日程を、6月、8月、10月等の複数回に分散化させて実施する。入学者確保のための高専の魅力を伝える。 ①-2-2 本校主催のオープンキャンパスを企画・実施する。中学校で開催される学校説明会の参加要請には確実に応え、PR活動を行う。本校教員を小中学校等に派遣する出前授業も行うとともに、小中学校の校外実習や総合学習のための上級学校訪問も積極的に受け入れ、校内見学や体験授業の実施により小中学生に本校の魅力を伝えていく。	①-2-1 広報戦略室と教務委員会が連携した入試説明会等を予定通り開催した。 ①-2-2-1 高校説明会への参加やオープンキャンパスの実施等により、長岡高専のアピールを実施した。 ①-2-2-2 小中学校への出前授業を実施した。 ①-2-2-3 小中学校からの上級学校訪問を実施した。	◎:既に達成している	
①-3 教務委員会と協力し、STEAM教育に関する情報発信を行う。	①-3 教務委員会と協力し、STEAM教育に関する情報発信を行った。	◎:既に達成している	
②-1-1 ダイバーシティ推進室と協力し、女子中学生向けの広報活動を実施する。 ②-1-2 ダイバーシティ推進室のホームページや女子生徒向け冊子を活用するとともに、高専GCONなどの機会を通じて女子中学生への広報活動を進める。また、本校に適性を持つ女子中学生の獲得に向けて、オープンキャンパスや学園祭、出前授業などの機会を通じて女子中学生向けの進路相談会や科学体験・講演会を実施する。	②-1-1 ダイバーシティ推進室と協力し、女子中学生向けの広報活動を実施した。 ②-1-2 女子学生特設サイト「NAGAOKA KOSEN GIRL」及びダイバーシティ推進室ホームページでの女子中学生向けイベントの案内を行った。また、「長岡高専ガール」をオープンキャンパスで配布し、広報活動を進めた。高専GCONに3チームエントリーした。また、ナガオカエンジニアガールズラボの組織を活用して、オープンキャンパスにて女子中学生を対象としたブースを出展した。学園祭では、ポスター掲示及び工作教室を実施した。	◎:既に達成している	
②-2-1 海外との交流活動は随時ホームページに掲載するとともに、適宜SNS等を活用する。 ②-2-2 公式ホームページの英語版の内容を点検し、コンテンツの更新と充実を図る。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用を図る。 ②-2-3 各国からの留学生に対する日本語指導を主に担当する特命准教授を一般教育科に配置する。	②-2-1 海外との交流活動は、活動終了後本校ホームページに掲載した。また、適宜SNS等を使用し、本校の国際交流活動のアピールを行った。 ②-2-2 本校ホームページの英語版の内容を点検し、計画に沿って今年度分の更新を実施した。動画コンテンツの更新には、多額の費用が発生するため今年度は学校紹介動画コンテンツの更新を見送った。 ②-2-3 各国からの留学生に対する日本語指導を主に担当する特命准教授を一般教育科に配置し、各国からの留学生に日本語指導を行った。	◎:既に達成している	
③-1-1 国立高等専門学校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、法人本部が策定した作問ポリシーに基づき、学習指導要領に対応し、かつ、「思考力・判断力・表現力」をより重視した入学者選抜学力検査を実施する。 ③-1-2 受験生の負担軽減と利便性に繋がる「最寄り地受験」制度をKOSENFES2025等のイベントで広報することで、その定着を図るとともに、学力検査における「複数校志望受験制度」の推進についても他高専と情報交換を行う。	③-1-1 国立高等専門学校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、法人本部が策定した作問ポリシーに基づき、学習指導要領に対応し、かつ、「思考力・判断力・表現力」をより重視した入学者選抜学力検査を実施した。 ③-1-2 受験生の負担軽減と利便性に繋がる「最寄り地受験」制度をKOSENFES2025等のイベントで広報した。また、学力検査における「複数校志望受験制度」の推進についても他高専と情報交換を行った。	◎:既に達成している	
③-2 本校のこれまでの対応事例を取りまとめ、障害がある受験生に対しては申し出に基づき情報提供を行い、受験時の合理的配慮を行う。	③-2 10/15開催の企画運営会議で、障害学生支援委員会の新設が承認され、4主事を中心とした全学的対応体制が整備された。その委員会を中心に本校のこれまでの対応事例を取りまとめ、障害がある受験生に対しては申し出に基づき情報提供を行い、受験時の合理的配慮を行った。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(2)教育課程の編成等 ①-1-1-1 Society 5.0で実現する、社会・経済構造の変化や技術の高度化、デジタル人材育成、地域課題解決等の社会・産業・地域ニーズに応じた高専教育の高度化・国際化の進展を目的として、教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を中心に、教育課程等の在り方を見直す。 ①-1-1-2 第2ブロックの専攻科長会議で情報交換を行い、専攻科の発展のための教育改善を年1回の頻度で実施しているが、今後も継続してそのような機会を確保する。また、第2ブロック専攻科長の共有Teamsを作成し、随時、相談できる仕組みも構築済みであるが、今後もそのような第2ブロック内専攻科長での意見、情報交換できるプラットフォームの強化、第2ブロック専攻科の連携強化を継続する。	①-1-1-1 Society 5.0で実現する、社会・経済構造の変化や技術の高度化、デジタル人材育成、地域課題解決等の社会・産業・地域ニーズに応じた高専教育の高度化・国際化の進展を目的として、教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を中心に、教育課程等の在り方を見直している。その中でも、AIR Tech WGが主導した教育プログラムが、MDASH応用基礎レベルプラスに認定された。 ①-1-1-2 10/1に、オンラインによる第2ブロックの専攻科長会議で情報交換を行い、第2ブロック専攻科の連携強化を行った。	◎:既に達成している	
①-1-2 機構本部から委嘱を受けた「イノベーションを創出するアントレプレナーシップ教育強化」事業におけるパイロット校として、アントレプレナーシップ教育、社会実装教育を実践し、グッドプラクティスとして他高専と情報共有を行う。	①-1-2 機構本部から委嘱を受けた「イノベーションを創出するアントレプレナーシップ教育強化」事業におけるパイロット校として、アントレプレナーシップ教育、社会実装教育を実践した。例えば、9月の集中講義期間に、アントレプレナーシップ基礎を開講し、他高専5校8名も加えた全25名の学生がアントレプレナーシップを学んだ。そのようなグッドプラクティスは、8月に開催されたKOSENフォーラム2025で発表することで、他高専と情報共有を行った。また、10/17開催のJVCA地方創生VCTopp懇談会、10/24開催の長岡インデペンデンツでベンチャーキャピタル、行政の関係者にも広く周知した。	◎:既に達成している	
①-2 3年目を迎え、2名の修了生を出した長岡技術科学大学の連携教育プログラムの専攻科志願者への周知、プログラム参加者の希望者を募ることを継続する。上越教育大学と連携し、教員免許が取得可能なプログラムを専攻科生に周知を継続、過去に1名が上越教育大学一長岡高専専攻科の連携一教員免許プログラムを活用して上越教育大学大学院に進学したが、引き続き希望者を募り、本プログラムの発展を目指す。	①-2 本科4年生(全学科)対象の「特色ある教育プログラムガイダンス」において、長岡高専一長岡技術科学大学の連携教育プログラム、上越教育大学大学院進学による教員免許取得の両プログラムの発展のための周知・宣伝を行った。	◎:既に達成している	
②-1-1 長岡高専生が専攻科生として所属しながら、1年留学によるフィンランド応用科学大学ビジネス系学位も取得するプログラムを継続して実施する。 ②-1-2 フィンランドのトゥルク応用科学大学とのディグリープログラム、シンガポールナンヤンポリテクニックへの単位修得型海外研究室派遣留学制度を継続して進める。海外協定校と連携し、「トビタテ！留学JAPAN」やJASSO支援等を活用した学生の海外留学を推進する。アントレプレナーに関わる教科科目の受講を推奨し、ブロック内開催予定の課題解決型GlobalCampへも参加を促す。	②-1-1 1年留学によるフィンランド応用科学大学ビジネス系学位のための論文提出を12月までに行うよう、プログラム履修専攻科生を指導した。当該専攻科生は、令和8年3月の専攻科修了、学位授与機構からの学位取得およびフィンランド応用科学大学における所定の単位取得をもって、フィンランド応用科学大学ビジネス系学位を取得した。 ②-1-2 本年度は、フィンランドのトゥルク応用科学大学とシンガポールのナンヤンポリテクニックとタイのタマサート大学へ合計6名の学生を研究室派遣できた。第2ブロック内開催のGlobalCampは7月に実施され、本校からの参加者はなかったが、鳥羽商船高専が主催したGlobalCampに本校から1名が参加した。	◎:既に達成している	
②-2-1 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進する。事業2年目にあたるR7年度は、従前の取組を継続するとともに、以下の事項に取り組む。 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トゥルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化の検討 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(オンライン英会話等)を実施 ②-2-2 長岡高専生が専攻科生として所属しながら、1年留学によるフィンランド応用科学大学ビジネス系学位も取得するプログラムを継続して実施する。また、そのプログラム参加する専攻科生への経済的支援としてJASSO支援を活用できるよう継続して申請を行う。	②-2-1 海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季は派遣研修実施済み。春季にも派遣研修を実施した。 ②-2-2 1年留学によるトゥルク応用科学大学ビジネス系学位のための論文提出を12月までに行うよう、プログラム履修専攻科生を指導した。当該専攻科生は、令和8年3月の専攻科修了、学位授与機構からの学位取得およびトゥルク応用科学大学における所定の単位取得をもって、トゥルク応用科学大学ビジネス系学位を取得した。JASSOも申請し、本プログラムの専攻科生の経済的支援策を実施、採択となった(しかし、その後、フィンランド政府のEU外留学生の学費徴収義務化の指針により、本プログラムの継続が不可能な状況となっている)	◎:既に達成している	
③-1 全国高等専門学校ディープラーニングコンテストや全国高等専門学校ロボットコンテストなど各種コンテストへの積極的な参加を支援する。	③-1 TeamsやSHR等を通じて、各種コンテストを周知した。多くの学生が各種コンテストに出場しており、参加旅費についても支援した。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-2 ボランティア活動への参加を推奨するとともに、顕著な活動を行った学生及び学生団体の顕彰を行う。	③-2 学生主事講話、TeamsやSHR等を通じて、ボランティア活動や善行を勧めたが、後期授業ガイダンスの時点では該当者はいなかった。後期に該当者がいた場合には、次年度の始業式で表彰を行う予定であったが、該当者がいなかった。	◎:既に達成している	
③-3-1 学生に「トビタテ! 留学JAPAN」やJASSO支援の制度等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図るために、夏季海外派遣研修に加えて春季海外派遣研修を実施する。各ブロックで開催予定のKOSEN Global Camp に本校の学生が参加するよう促す。 ③-3-2 専攻科生の3ヶ月の短期留学派遣に対するJASSO支援を継続活用する。また、長岡高専生が専攻科生として所属しながら、1年留学によるフィンランド応用科学大学ビジネス系学位も取得するプログラムへのJASSO支援を活用できるよう継続して申請を行う。高専機構グローバルエンジニアリング事業による予算補助を活用し、専攻科生の外部英語教育教材への補助を継続する。	③-3-1 海外留学は、JASSO支援の制度を利用し、今年度3カ国に計6名の学生が留学した。夏季海外派遣研修には、計47名が参加した。春期海外研修は、計24名が参加した。第2ブロックGlobal Camp は7月に茨城高専で実施され、本校からの参加者はなかったが、鳥羽商船高専が主催したGlobalCampに本校から1名参加した。 ③-3-2 グローバルエンジニア事業により、専攻科生の外部英語教育教材の補助を継続し、専攻科生の作成した英文の校閲事業を行った。また、専攻科生が学ぶ授業内容について、英文で学習できる環境の構築をサポートした。	◎:既に達成している	
(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の公募は、従来と同様に「博士の学位を有するもの、または着任までに取得見込みのもの」として明記する。原則として博士学位を有するものを採用する。 自校以外の高専、大学、高等学校、民間企業、研究機関などに勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者を幅広く採用する。 女性教員、外国人教員など多様な人材の中から優れた教育研究力を有する人材を採用する。一般科目については博士の学位や技術士を有する者、理系以外の一般科目については修士以上の学位を有する者を公募により採用する。	① 年度計画に示した内容で公募し採用した。	◎:既に達成している	
②-1 クロスアポイントメント制度の推進に対する現状の課題と対策を検討する。民間で活躍する人材を活用して教育内容の高度化を図る。	②-1 専門学科教員の充足を優先事項としたため、クロスアポイントメント制度の実施には至らなかったが、企業や大学に在職していた人材を採用することで教育内容の高度化を図った。	◎:既に達成している	
②-2 起業経験、事業創造支援経験のある民間人材を講師とするアントレプレナーシップ教育を2科目実践することで、教育内容の高度化を推進する。	②-2 起業経験、事業創造支援経験のある民間人材を講師とするアントレプレナーシップ教育を2科目実践した。前期のアントレプレナーシップ論、集中講義期間のアントレプレナーシップ基礎である。	◎:既に達成している	
③ 定期的に懇談会の開催やアンケートを実施し、ライフステージに応じた職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的に進める。	③-1 教職員アンケートを実施し、意見や要望を反映した取り組みを行った。 ③-2 教職員懇談会を12月に2回開催した。「働き方改革の実態共有」にスポットを当て、公私問わず日頃教職員が課題に感じていることや工夫していること、ライフハック・ワークハックを話し合い、共有する機会とした。ライフイベント復帰復職研究者支援制度とライフイベント支援事業(研究補助員配置支援)制度を運用した。	◎:既に達成している	
④ 学内における多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材(例えば外国籍人材など)が公募に応じやすくなるような環境を整える。	④ 外国籍人材の公募にも配慮しており、常勤教員の採用実績がある。	◎:既に達成している	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学ほか、国立高等専門学校の教員人事交流について教員の意向を伺い、環境整備に努める。	⑤ 教員人事交流の派遣と当該学科受け入れについては、広く学内に周知し意向を確認した。	◎:既に達成している	
⑥ 教学マネジメント(3つの方針)、学生支援(学生相談)に関係する全学的なFD研修会を、高専教育高度化戦略室、学生相談室が主導して開催する。	⑥-1 9/25に、学生相談室が合理的配慮に関するFD研修会を開催した。また、3/11に、高専教育高度化戦略室が教学マネジメントに関するFD研修会を開催した。 ⑥-2 合理的配慮及び障害学生支援に関する講演会を開催した。(9/25)	◎:既に達成している	
⑦ 本校、教職員表彰規程に準じて、教職員で教育、研究、学校運営及び社会貢献等に関して、顕著な功績等を挙げたものを表彰する。	⑦ 年度計画に準じて実施し、3/26に教職員表彰式を行った。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(4)教育の質の向上及び改善 ①-1 社会ニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化を図るため、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における応用基礎レベルの申請を行う。また、産業界や行政と連携して、COMPASS5.0事業・半導体分野の実践校として社会ニーズに対応したカリキュラムを検討する。国立高等専門学校のスケールメリットを活かすため、COMPASS5.0事業における数理・データサイエンス・AI分野の拠点校や半導体分野の拠点校が取りまとめた関連教材の活用を検討する。カリキュラム検討の際には、高専教育の高度化・特色化に向けて整備されたMCCplusを活用する。 教育の質の向上及び改善のための教学マネジメントは、PDCAのCheck、Actionを担う高専教育高度化戦略室と教務主事が連携して推進する。学内における教学マネジメントの定着化、充実化を図ることを目的とした全学FD研修会を1回開催する。 ①-2 作成した工程表に沿って三つの方針に係る点検を実施するとともに、学内で「三つの方針」について考えるワークショップを開催し、知見を共有することで教育改善につなげる。	①-1-1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に申請し、本年8月にMDASH応用基礎レベルプラスに認定された。応用基礎レベルのプラス認定は、全国高専で唯一。北信越地方の大学・高専の中で唯一である。教学マネジメントに関するFD研修会を3/26に実施した。 ①-1-2 対面(3/11)・オンデマンド(2/24～3/13)併催により教学マネジメントFD研修会を実施し、合計30名の参加者による意見交換と現状課題感の共有を行った。 ①-2 工程表に沿って、三つの方針に係る点検のフローを作成した。	◎:既に達成している	
②-1 教育の質保証および改善のため、自己点検評価改善委員会が全体統括して、前年度と同様に自己点検を行い機関別認証評価の観点項目を達成するように計画的に進める。外部有識者会議等の評価結果を受けて課題の点検と改善による自己点検を行い教育と研究の質の保証及び向上に努める。 ②-2 法人本部との併任者、国立高専教育国際標準(KIS)事業の連携者等において、各高専の評価結果の優れた点や改善を要する点を共有し、自高専の教育の質の向上に努める。特に、前回のKIS受審の際に高い評価を得たキャリア支援システム「みらいテラス」の達成度点検機能については、他高専の関係者に情報提供し展開に努める。	②-1 年度計画に従い、自己点検評価改善を全学的に展開した。外部有識者会議を実施し、その指摘事項を反映した改善とPDCAを行う予定である。 ②-2 自高専の教育の質の向上に務める役職の教員を、法人本部との併任者として1名、国立高専教育国際標準(KIS)事業の連携者として2名配置し、各高専の評価結果の優れた点や改善を要する点に関して情報収集を行った。前回のKIS受審の際に高い評価を得たキャリア支援システム「みらいテラス」の達成度点検機能については、照会があった高知高専等に情報提供を行った。	◎:既に達成している	
③-1-1 企業と連携した教育コンテンツ(JSCOOP)の開発(改良)を推進しつつ、課題解決能力、コミュニケーションなどの人間基礎力を養う共同教育を実施する。また、企業と連携した地域企業を知る講座等の共同教育を実施する。 ③-1-2 STEAM教育の高度化を図るため、照明器具製品を取り扱う企業と連携した「ILUUMME ひかりのワークショップ」を、本校低学年を対象に企画する。光×アート×デザインの観点からILLUME(光デバイス)をスクラッチ等で制御するSTEAM教育である。	③-1-1-1 地域産業と技術の理解を目的として、学生が企業訪問と取材を通し、JSCOOP(企業のPR原稿作成)を実施した。 ③-1-1-2 地域企業が抱える問題を学科・専攻科横断の混成チームで解決するJSCOOP(課題解決プログラム)を地域企業と連携し継続中。 ③-1-2 STEAM教育の高度化を図るため、照明器具製品を取り扱う企業と連携した「ILUUMME ひかりのワークショップ」を、本校低学年を対象に企画し、1月に本校を会場として開催した。	◎:既に達成している	
③-2-1 STEAM教育の高度化を図るため、照明器具製品を取り扱う企業と連携した「ILUUMME ひかりのワークショップ」を企画する。光×アート×デザインの観点からILLUME(光デバイス)をスクラッチ等で制御するSTEAM教育である。また、当該企業のCSRの一環として、地域の小中学生向けにSTEAM教育を実践できる「ILLUME ひかりのワークショップ」講師を養成するインターンシップを企画する。 ③-2-2 長岡高専の専攻科で実施しているエンジニアリングデザイン演習を実施し、その科目の成果をさらに発展させ、コンペティションの参加を促している。よりよい成果については、長岡高専HP等で企業と連携した成果情報を公開することを心がける。	③-2-1 照明器具製品を取り扱う企業のCSRの一環として、地域の小中学生向けにSTEAM教育を実践できる「ILLUME ひかりのワークショップ」講師を養成するインターンシップを企画したところ、第4学年3名の学生が参加し、8/30にワークショップを開催した。 ③-2-2 小学校と連携したテーマでは、作成した教材を用いて、11月に小学校で実際に授業を実施した。さらに、このようにして作成した小中学生向けの放射線について学習する教材を、小学校での授業のみならず、中学校での出前授業や、まちなかキャンパスでの小学生向けの講座などで活用し、その成果を長岡高専HP等で公開した。	◎:既に達成している	
④-1 3年目を迎え、2名の修了生を出した長岡高専ー長岡技術科学大学の連携教育プログラムの専攻科志願者への周知、プログラム参加者の希望者を募ることを継続する。 ④-2 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学の教員人事交流について、教員の意向に添えるよう交流の推進に努める。	④-1 本科4年生(全学科)対象の「特色ある教育プログラムガイダンス」において、長岡高専ー長岡技術科学大学の連携教育プログラムの周知を行った。保護者面談時に、専攻科の特色ある教育プログラムとして、長岡高専ー長岡技術科学大学連携教育プログラムを含む専攻科パンフレットを配布した。 ④-2 R8.4.1付で5名の教員採用により、欠員となっていた教員人員が概ね解消され、教員人事交流が可能な環境となった。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(5) 学生支援・生活支援等 ① カウンセラーの配置の充実を図るとともに、ソーシャルワーカーや特別教育支援士等の専門職の配置を推進する。また、学生相談室を核として、いじめ防止や障害を有する学生への支援を含めた学生指導支援に関して校内研修会を実施する。	① 専門職として、カウンセラー2名とキャリアコーディネーター2名を配置し、学生の支援を行っている。全教職員に対して「学校いじめ防止プログラム」による教職員の研修を実施した。また、9月に学生相談室及びダイバーシティ推進室主催で合理的配慮及び障害学生支援に関するFD講演会を開催した。	◎:既に達成している	
② 高等教育の修学支援新制度などの各種奨学金制度については、今後も法人本部、日本学生支援機構、奨学金拠出元等からの諸連絡・通知に注意し、全学生宛 Teamsや本校公式ホームページでの記事掲載、アプリを使用した保護者宛通知等により適切に周知していく。	② 高等教育の修学支援新制度などの各種奨学金制度について、Teamsや本校公式ホームページ、MyiD等により学生、保護者に適切に周知した。	◎:既に達成している	
③-1 令和6年度に新設したキャリア支援室を窓口とし、関係部署と連携してキャリアカフェにて企業情報、就職・進学情報、個別相談の場を提供し、さらに就職・進学に関するセミナーを定期的に開催する。長岡高専入学から卒業までのキャリア形成プロセスを一貫した手引書「キャリアガイド」を配布し、キャリアデザイン科目で活用する。既存の授業・学校行事(インターンシップ、工場見学、見学旅行、等)のキャリア形成における位置づけをより明確に、共通認識として確立する。また、卒業・修了時アンケートにキャリア支援も含めた満足度項目を追加し、教育改善に活用する。 ③-2 教育課程において、1年、2年にキャリア科目を配当するとともに、4年では、技術協力会等の企業と連携したインターンシップを実施し、キャリア教育を推進する。また、キャリア形成のため、卒業生を講演者とした特別講演会を開催する。	③-1-1 キャリア支援室の物理的な窓口として、キャリア・カフェをより学生の導線に近い場所に移設した。 ③-1-2 企業からの求人・セミナー等や大学の募集案内など、郵送物・メールをキャリア支援室に集約を始めた。 ③-1-3 キャリア・コーディネーターによる就職・進学に関する個別相談、セミナーの開催を行った。 ③-1-4 特定の学科ではなく、学校全体としての企業面談に対応した。 ③-1-5 自治体の企画による地元企業と大学等の交流企画に出席し、情報交換を行った。 ③-1-6 3学年工場見学「企業見学会」の打ち合わせに陪席し、学校としての行事の趣旨の共通理解を促した。 ③-2 教育課程において、1年、2年にキャリア科目を配当し、4年では、技術協力会等の企業と連携したインターンシップを実施した。年度内に、学生のキャリア形成のため、卒業生を講演者とした特別講演会を実施した。 また、就職・進学情報の提供を目的とし、4年、専攻科進学予定の5年及び専攻科1年を対象とした進路ガイダンスを実施した。	◎:既に達成している	
1. 2 社会連携に関する事項 ① コーディネータと連携し、教員プロフィール集、長岡高専技術協力会法人会員企業技術シーズ集の更なる拡充を図り、印刷物、ホームページ等を通じて発信する。	① 2025年度版教員プロフィール集(冊子版、ウェブ版)を公開した。技術シーズ集についても準備を進めている。	◎:既に達成している	
②-1 技術協力会から活動資金を得て産学連携コーディネーターの雇用を継続する。コーディネーターが中心となり、地域企業や自治体等のニーズ及び教員シーズを把握し、技術相談、受託研究、共同研究活動をより一層促進する。 ②-2 コーディネーターを中心に高専間連携のより一層の緊密化を図り、ラボツアーや教員技術シーズ紹介イベント等の教員シーズを企業に周知するイベントを引き続き開催し、共同研究、受託研究の受け入れを促進する。	②-1 技術協力会の活動資金からコーディネータを雇用し、地域企業や自治体等のニーズ及び教員シーズを把握し、技術相談、受託研究、共同研究活動を推進する体制が整備されている。 ②-2 7月にオンライン技術シーズ交流会(TechBridge相談会)を実施し、技術協力会会員企業に、本校教員5名の技術シーズの紹介を行った。	◎:既に達成している	
③-1 報道機関のニーズを聞きながら「記者懇談会」の企画・開催を検討する。	③-1 報道機関のニーズを把握するため、「記者懇談会」の企画・開催について検討したが、検討の結果、より効果的な情報発信手段としてプレスリリースの発信を強化する方針とし、発信内容の充実を図りながら実施した。	◎:既に達成している	
③-2 これまでと同様に、大きなイベントや学生・教職員の目覚ましい活躍などについては本校Webサイトに記事を掲載するとともに、程度・必要に応じ積極的にプレスリリースを行う。また、動画を積極的に活用するなど広報手段の改善を図ると共に本校が関係する報道情報収集に努め、新聞やテレビ等のメディアに記事掲載等のあった際は、報道内容及び報道状況について随時法人本部に報告を行う。	③-2 地域連携活動や学生活動、学校行事、国際交流等に関する記事を本校Webサイトに掲載した。加えて公式YouTubeチャンネルにて、学生のインタビュー動画や寮生トークセッション動画を掲載し、再生回数も伸びている。また、令和7年度分の報道内容及び報道状況については、すべて法人本部への報告を行った。	◎:既に達成している	
④ 昨年度はpython講座、英語講座、人材採用等、33講座を企画した。受講者数が講座によっては少なかったことから、講座の見直しや運用方法について見直しを行う。	④ 講座の見直しを進めており、開設する講座の選定及び開催形式について検討を進めている。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 マレーシア在日本国大使館やJICAマレーシア事務所との組織的・戦略的な連携の下に、マレーシア政府人的資源省傘下のJMTI及びADTCE校の支援に取り組む。	①-1 令和7年9月初旬、学生15名を引率してADTEC Melakaを訪問し、ものづくり学生交流を行った。	◎:既に達成している	
①-2 モンゴル3高専の支援を継続して行う。	①-2-1 令和7年9月初旬、学生13名を引率して、モンゴル高専を訪問し、ものづくり学生交流を行った。 ①-2-2 モンゴル3高専の電気電子系教員の研修を担当している。7月に訪日研修を本校で実施済み。渡蒙研修も12月に実施済みである。	◎:既に達成している	
①-3 タイ高専の支援を継続して行う。	①-3 KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTT から計2名の学生を本校に受入れた。内1名は、来春本校卒業後、日本国内の大学へ編入学をする予定である。	◎:既に達成している	
①-4 必要に応じ、モンゴル3高専の支援とタイ高専支援の経験を生かして、適切な助言を行う。	①-4 情報収集を行うため、第2回日越KOSENシンポジウムにオンラインで参加した。	◎:既に達成している	
①-5 必要に応じ、モンゴル3高専の支援とタイ高専支援の経験を生かして、適切な助言を行う。	①-5 モンゴルの高専支援を通じて、支援ノウハウを蓄積した。	◎:既に達成している	
①-6 諸外国の政府関係者、教職員の訪問を積極的に受け入れて、「KOSEN」の教育制度の紹介に努める。	①-6 12月初旬に、スウェーデンのNTIストックホルムから教員と学生が来校した。スウェーデンの教員へは、「KOSEN」の教育制度を紹介した。	◎:既に達成している	
①-7 「KOSEN」導入を検討する諸外国機関が来校した機会等を捉えて、必要に応じて国立高専教育国際標準(KIS)認定に向けた情報提供・助言等を実施する。	①-7 「KOSEN」導入を検討する諸外国機関が来校した際には、KIS認定に向けた情報提供、助言等を実施する体制を整備していたが、当該機関の来校する機会がなかった。	◎:既に達成している	
② 本校で取り組んでいるモンゴル3高専支援活動とタイ高専支援活動を通じ、校内における教職員・学生の国際化を進めていく。	② モンゴル3高専の電気電子系教員の研修を担当している。	◎:既に達成している	
③-1-1 海外協定校のフィンランド・トゥルク応用科学大学とのディグリープログラム、シンガポールナンヤンポリテクニクへの単位修得型インターンシップ派遣を継続して進める。海外協定校と連携し、「トビタテ！留学JAPAN」やJASSO支援等を活用した学生の海外留学を推進する。アントレプレナーに関わる教科科目の受講を促す。 ③-1-2 鈴鹿高専で行われているグローバルアントレプレナーシップ授業への長岡高専専攻科生への参加の周知を行う。	③-1-1 海外協定校のフィンランド・トゥルク応用科学大学とのディグリープログラムに、本校学生1名が取組中である。すでに日本へ帰国しており、卒業論文に相当するレポートを提出済。 ③-1-2 長岡高専専攻科生に、鈴鹿高専で行われているグローバルアントレプレナーシップ授業への参加の周知を行った。	◎:既に達成している	
③-2-1 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進する。事業2年目に当たるR7年度は、従前の取組を継続するとともに、以下の事項に取り組む。【再掲】 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トゥルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化の検討 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(オンライン英会話等)を実施 ③-2-2 専攻科生に3ヶ月の短期留学(シンガポール、フランス、フィンランド)の募集を継続的に行う。また、フィンランドのトゥルク応用科学大学において、長岡高専専攻科生が1年間かけてビジネス系科目を履修し、学位取得を目指す。専攻科生の海外展開と絡めたアントレプレナーシップ教育を長岡高専専攻科教育として継続して実施する。	③-2-1 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進している。以下の事項は既に実施済みである。 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(オンライン英会話等)を実施した。 ③-2-2 3ヶ月の短期留学派遣のJASSO支援を受けて、専攻科生2名をシンガポールのナンヤンポリテクニクに、さらに、専攻科生2名がフィンランドトゥルク応用科学大学に派遣した。フィンランドのトゥルク応用科学大学ビジネス系学位の取得に関しては、当該応用科学大学への1年海外留学で学位に必要な単位取得を完了し、長岡高専での研究活動を論文として成果にすることで、フィンランドトゥルク応用科学大学ビジネス系学位を取得できた。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-3-1 学生に「トビタテ！留学JAPAN」やJASSO支援の制度等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。海外インターンシップのほか、海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図るために、夏季海外派遣研修に加えて春季海外派遣研修を実施する。各ブロックで開催予定のKOSEN Global Camp への参加を促す。 ③-3-2 専攻科生の3ヶ月の短期留学派遣に対するJASSO支援を継続活用する。また、長岡高専生が専攻科生として所属しながら、1年留学によるフィンランド応用科学大学ビジネス系学位も取得するプログラムへのJASSO支援を活用できるよう継続して申請を行う。高専機構グローバルエンジニアリング事業による予算補助を活用し、専攻科生の外部英語教育教材への補助を継続する。	③-3-1 春期海外研修は、アメリカとシンガポールとスウェーデンへ派遣した。第2ブロックGlobal Camp は7月に茨城高専で実施済みで、本校からの学生の参加はなかったが、鳥羽商船高専が主催したGlobalCampに、本校から1名が参加した。 ③-3-2 3ヶ月の短期留学派遣のJASSO支援を受けて、専攻科生2名をシンガポールのナンヤンポリテクニクに、さらに、専攻科生2名がフィンランドトウルク応用科学大学に派遣した。フィンランドのトウルク応用科学大学ビジネス系学位の取得に関しては、当該応用科学大学への1年海外留学で学位に必要な単位取得を完了し、長岡高専での研究活動を論文として成果にすることでフィンランドトウルク応用科学大学ビジネス系学位を取得できた。	◎:既に達成している	
④-1 国際交流推進センターと広報戦略室の連携を強化し、公式ホームページの英語版の内容を点検し、本校が取り組む次世代人材育成プログラムに関するコンテンツの更新と充実を図る。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用を図る。各ブロックで開催予定のKOSEN Global Camp に本校の学生が参加するよう促す。日本語教育等の支援、留学生の受け入れも継続する。 ④-2 日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づき、プリンセス・チュラポーン・サイエンスハイスクールから令和5年度まで本科1年次に受け入れた外国人留学生の支援を継続する。また、KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTから本科3年次への外国人留学生の受入を継続する。それら外国人留学生の支援は、日本語指導を主に担当する特命准教授を中心に行う。	④-1-1 ホームページの英語版コンテンツ更新について、最新の情報に変更した。 ④-1-2 本校ホームページの英語版の内容を点検し、計画に沿って今年度分の更新を実施した。動画コンテンツの更新には、多額の費用が発生するため、今年度は学校紹介動画コンテンツの更新を見送る。 ④-1-3 第2ブロックGlobal Camp は7月に茨城高専で実施済みで、本校からの学生の参加はなかったが、鳥羽商船高専が主催したGlobalCampに、本校から1名が参加した。 ④-2-1 特命准教授(日本語主担当)が、各国からの留学生に日本語指導を行った。 ④-2-2 外国人留学生の支援は、日本語指導を主に担当する特命准教授を中心に行った。	◎:既に達成している	
⑤-1 国際交流で海外派遣を実施する際には、安全面を考慮し、海外旅行保険に加入させる。 ⑤-2 東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告を遅滞無く行い、その際本学に在籍する留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握する。	⑤-1 海外派遣前に渡航する教職員及び学生を対象に説明会を開催し、保険内容について伝えるとともに、海外旅行保険に加入させた。 ⑤-2 東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告を遅滞無く行った。その際、本学に在籍する留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握した。	◎:既に達成している	
2. 1 一般管理費等の効率化 ・一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、光熱水量などの縮減及び業務の効率化の推進を図る。	2.1 一般管理費等の縮減については、令和7年度予算の所要額調べの際に「継続して実施してきた事項についても見直しを行い、廃止や縮小の検討を行う」旨依頼して、真に必要な事業経費の申告を促したうえで、ヒアリングを実施し、予算計画を策定することで適正かつ効率的に一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、経費の削減を図った。 また、光熱費高騰に伴う省エネの徹底について、6月18日開催の第5回企画運営会議において、「電気・ガス使用量の抑制のための具体行動について」了承され、改めて省エネの徹底を依頼した。	◎:既に達成している	
2. 2 給与水準の適正化 該当なし		該当なし	
2. 3 契約の適正化 ・契約は計画的に行うこととし、原則として一般競争入札等によることとする。また、法人本部作成の「契約事務等の取扱について」などを活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に務める。	2.3 契約は計画的に実施し、原則として一般競争入札等により実施している。また、機制作成の「契約事務等の取扱について」を活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に努めている。引き続き、適正化を図る。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 ・包括的な学生サポート業務の効率化・生産性向上に関する学内体制および取組み内容について検討する。 ・教育における業務の効率化と教職員の業務効率化の全学的見直しを継続し、情報システムの利用と管理に関する計画的な研修を実施する。前年度と同様に、就職指導・支援業務の効率化として求人資料受付業務の電子化を継続する。	2.4-1 学生証アプリ MyiD を導入し、出席確認や学生・保護者からの欠席連絡等に活用している。また、サイボウズやTeamsを用いた学生情報の共有の取組みを進めている。インターンシップ支援システムは、検討の結果、次年度導入予定とした。 2.4-2 MyiDの導入による教育指導の向上、連絡方法の迅速化、教職員の業務効率化を図っている。情報システムのセキュリティ対策の研修を受講し、インシデントの抑止を図っている。各学科の就職支援業務を一元化し、電子化を継続的に運営している。	◎:既に達成している	
3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 3. 1-1 教育研究機能の強化に資する取り組みを重点に推進するため、予算編成にかかる基本方針を定め、予算の効率的かつ効果的な学内配分を行う。 3. 1-2 独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	3.1-1 予算編成及び執行にあたり、6/18開催の企画運営会議において、「令和7年度予算編成に係る基本方針」等策定し、本方針に基づき、令和7年度予算配分を行った。 3.1-2 各予算科目の配分にあたり、所要見込額についてヒアリングを実施し、効率的かつ効果的な予算配分を行った。	◎:既に達成している	
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 3. 2-1 科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会等を引き続き実施する。 3. 2-2 引き続き、地域創生教育研究室がコーディネーターや起業支援人材と協働し、国や県の補助金を積極的に活用し、受託研究や共同研究の実績増に繋げる。 3. 2-3 教員の研究活動に従事できる時間の確保について、引き続き検討を行う。 3. 2-4 大型外部資金を獲得した教員の支援体制について、引き続き検討を行う。 3. 2-5 寄附者の利便性を図れるような決済手段の導入について検討を行う。 3. 2-6 令和6年度より導入したネーミングライツ制度の拡大について検討し、自己収入の増加を図る。	3.2-1 科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会(科研キャンプ)を5月～8月に実施した(参加教員11名)。 3.2-2-1 地域創生教育研究室がコーディネーターや企業支援人材と協働し、国や県等の大型外部資金申請のためのヒアリングを行った。 3.2-2-2 R6年度末の技術協力会の会員企業数は417社だったが、現時点で436社まで増加した。 3.2-3 教員の研究活動に従事できる時間の確保について検討を行った。 3.2-4 大型外部資金(1件1000万円以上)を獲得した教員の校務負担軽減を行った。 3.2-5 令和8年1月より、クレジットカード決済できるシステムの運用を開始した。 3.2-6 本校のネーミングライツの趣旨と制度を広く周知するため、協定締結いただいた企業関係者及び本校関係者参加の下、4月1日にネーミングライツ協定締結記念式典を実施し、県内のテレビ局や地方新聞社を通じて、ニュース番組や誌面で取り上げていただいた。新たに、令和7年12月に1件公募を行い、1社と協定締結した。	◎:既に達成している	
3. 3 予算 該当なし		該当なし	
3. 4 収支計画 該当なし		該当なし	
3. 5 資金計画 該当なし		該当なし	
4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 該当なし		該当なし	
4. 2 想定される理由 該当なし		該当なし	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
5. 不要財産の処分に関する計画 以下の重要な財産について、速やかに現物を国庫に納付する。 ①函館工業高等専門学校 湯川町団地(北海道函館市湯川町2丁目40番2)2,118.70㎡ 梁川町団地(北海道函館市梁川町13番10)912.75㎡ 花園町団地(北海道函館市花園町27番13)1,164.14㎡ ②釧路工業高等専門学校 鳥取宿舍団地(北海道釧路市鳥取北7丁目6番7)949.34㎡ ③木更津工業高等専門学校 祇園宿舍団地(千葉県木更津市清見台東2丁目19番8号)1,735㎡ ④長野工業高等専門学校 黒姫団地(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山3884-6)8,547.00㎡ ⑤沼津工業高等専門学校 香貫宿舍団地(静岡県沼津市南本郷町569番、570番)287.59㎡ ⑥舞鶴工業高等専門学校 大波団地(京都府舞鶴市字大波上小字滝ヶ浦1112番)453.90㎡ ⑦徳山工業高等専門学校 御弓町団地(山口県周南市大字徳山字上御弓町4197番1)1,311.35㎡ 周南住宅団地(山口県周南市周陽三丁目21番2)1,310.32㎡ ⑧有明工業高等専門学校 宮原団地(福岡県大牟田市宮原町一丁目270番)2,400.54㎡ 正山71団地(福岡県大牟田市正山町71番2)284.31㎡ ⑨佐世保工業高等専門学校 瀬戸越団地(長崎県佐世保市瀬戸越1丁目1945番13)298.44㎡ 黒髪団地(長崎県佐世保市黒髪町105番1、105番9)678.82㎡ 天神団地(長崎県佐世保市天神5丁目988番8)725.8㎡ ⑩熊本高等専門学校 平山宿舍団地(熊本県八代市平山新町字西新開3142番1)2,773.00㎡ 新開宿舍団地(熊本県八代市新開町参号3番94)1,210.26㎡ ⑪沖縄工業高等専門学校 宇茂佐団地(沖縄県名護市宇宇茂佐大増原773番7、773番10、773番11、804番6、804番7)3,818.04㎡		該当なし	
6. 剰余金の使途 該当なし		該当なし	
7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 7. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1 安全・安心な教育環境確保のため、校舎・空調設備の老朽施設の改善に向けて、少額でも確実な成果の得られる手法を探り、工事を実施する予定である。 ①-2-1 学生寮の浴場設備に関する適切な整備計画をたて、省エネ化を実施する計画がある。 ①-2-2 昨年度作成した照明設備の基礎資料に基づきLED化を優先させるべき部屋から漸次進める予定である。	①-1 空調設備の老朽化への対応 空調設備の老朽化については、営繕事業において4号館空調更新工事が予算措置された。併せて、空調設備に点検サインが表示された際には早期に点検を実施する体制を整えたことにより、故障の未然防止が図られ、修繕費の削減につながった。また、営繕事業において4号館空調更新工事が予算措置された。 ①-2-1 学生寮浴場設備の改修 学生寮の浴場設備については、改修に係る設計が完了しており、今後の工事実施に向けた準備が整っている。 ①-2-2 体育館照明設備の省エネルギー化 特別教育研究経費(高度な先端設備・基盤的設備の整備)の追加配分を受け、第1体育館のLED化工事を令和7年度中に完成させた。これにより、エネルギー使用量の削減及び省力化が実現した。	◎:既に達成している	
② 法人本部より提供される「実験実習安全必携」の電子データを製本して学生に配付し、各学科において実験・実習での学生指導に活用する。	② 新入生に「実験実習安全必携」の冊子を配付した。第1回教務委員会において、各学科の委員に「実験実習安全必携」を活用した、学生指導を依頼した。	◎:既に達成している	
③ 施設機能の老朽化解消を進め、清潔感のある屋外環境整備を行い、中学生や保護者、在校生にとって魅力あるキャンパス環境を形成する予定である。	③ アスファルト陥没箇所の補修など、自ら可能な修繕を行い可能な限り、キャンパス環境の改善に努めた。	◎:既に達成している	
7. 2 人事に関する計画 (1)方針 ① 課外活動の外部コーチ活用、寮務業務の見直しをさらに検討し促進する。	① 教職員の働き方改革のひとつとして、部活動指導の時間制限の徹底や寮務業務の電子化による効率化を継続して進める。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
②-1 教授等の上位職ポストの利用、学科に依存しない全学的な教員ポストの運用により、人員枠の戦略的かつ効率的な配置を引き続き検討する。グローバルエンジニア育成事業、COMPASS5.0事業、スタートアップ事業等に係わる人材の確保を検討し、特色ある教育研究活動の伸長・深化を推進する。 ②-2 各高専の特色形成や教育研究プロジェクトのための教員枠の再配分を受けて、教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を中心に、特色ある教育研究活動の伸長・深化を推進する。	②-1 学科に依存しない全学的な教員ポストの運用を継続する。スタートアップ事業等に係わる非常勤人材を採用して、特色ある教育研究活動として推進している。 ②-2 各高専の特色形成や教育研究プロジェクトのための教員枠の再配分を受けて、教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を中心に、特色ある教育研究活動の伸長・深化を推進した。特に、AIR Tech WGが担当した数理データサイエンスAI教育プログラム認定制度申請においては、高専で唯一の応用基礎レベルプラス認定となった。	◎:既に達成している	
③-1 教授等の上位職ポスト、学科に依存しない全学的な教員ポストを弾力的に運用して優秀な若手教員を確保することを検討する。 ③-2 「教育体制整備」の中で、若手教員確保のため、教授の定員枠を流用して若手教員を雇用できるようにする等、教員人員枠の弾力化を戦略的に行う。	③-1 上位職ポスト、学科に依存しない全学的な教員ポストを弾力的に運用しており、若手教員の確保に努めている。 ③-2 「教育体制整備」の中で、若手教員確保のため、教授の定員枠を流用して若手教員を雇用できるようにする等、教員人員枠の弾力化を戦略的に行った。特に今年度の採用面接においては、Society5.0を実現するAI等の次世代教育を担える教員か否かを重視した質問を行い、全内定者が数理データサイエンスAIに関するリテラシー教育を専門に依らず担当できるよう選抜を行った。	◎:既に達成している	
④-1 専門科目担当教員の公募は、従来と同様に「博士の学位を有するもの、または着任までに取得見込みのもの」として明記する。原則として博士学位を有するものを採用する。 自校以外の高専、大学、高等学校、民間企業、研究機関などに勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者を幅広く採用する。 女性教員、外国人教員など多様な人材の中から優れた教育研究力を有する人材を採用する。一般科目については博士の学位や技術士を有する者、理系以外の一般科目については修士以上の学位を有する者を公募により採用する。	④-1 年度計画に示した内容で公募し採用を行った。令和7年度公募件数8件(前年度からの継続含む)、R8.4.1採用5名。	◎:既に達成している	
④-2 クロスアポイントメント制度の推進に対する現状の課題と対策を検討する。	④-2 専門学科教員の充足を優先事項としたため、クロスアポイントメント制度の実施には至らなかったが、企業や大学に在職していた人材を採用することで教育内容の高度化を図った。	◎:既に達成している	
④-3 定期的に懇談会の開催やアンケートを実施し、ライフステージに応じた職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的に進める。	④-3-1 教職員アンケートを実施し、意見や要望を反映した取り組みを行った。 ④-3-2 教職員懇談会を12月に2回開催した。「働き方改革の実態共有」にスポットを当て、公私問わず日頃教職員が課題に感じていることや工夫していること、ライフハック・ワークハックを話し合い、共有する機会とした。ライフイベント復帰復職研究者支援制度とライフイベント支援事業(研究補助員配置支援)制度を運用した。	◎:既に達成している	
④-4 多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、外国人教員が公募に応じやすくなるような環境を整えて採用を検討する。	④-4 外国籍人材の公募にも配慮しており、常勤教員の採用実績がある。	◎:既に達成している	
④-5 ダイバーシティ推進室室員を研修会や講演会に積極的に参加させ、室内で情報を共有する。また、ダイバーシティ推進室主催の講演会を開催し、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。	④-5 えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム主催のダイバーシティ研究環境実現シンポジウム兼ロールモデル講演会の開催を周知し、室員が聴講した。また、全教職員を対象に合理的配慮及び障害学生支援に関するFD講演会を開催した。	◎:既に達成している	
⑤ 個人の事情にも配慮した教職員の人事交流の活発化とその仕組みを検討する。資質向上のための各種研修を計画的に実施する。	⑤ 個人の事情を配慮した機構の人事交流希望調査を周知した。資質向上のための研修会の参加を促した。	◎:既に達成している	
(2)人員に関する指標 ・常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。	(2) 事務部全体の状況により、適切な人員配置を行った。	◎:既に達成している	

令和7年度 年度計画 (高専名:長岡高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
7. 3 情報セキュリティについて ① 機構本部の情報戦略推進本部を中心とした情報システムの最適化取組みについて、本校に適切に導入を図る。	① 次期ネットワークシステム導入に向けたパラメータシートを作成し、提出済み。	◎:既に達成している	
② デジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むため、機構本部主催の研修に参加し、人材確保を図る。	② 12月に開催される情報担当者研修会に参加した。	◎:既に達成している	
③ 校内システムの情報セキュリティ対策について、情報セキュリティ監査の結果を踏まえて引き続き改善を行う。	③ 昨年度のセキュリティ監査で指摘のあった事柄について対応済みであり、サーバの更新も次年度に完了する予定である。	◎:既に達成している	
④ 機構本部主催の管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育に参加する。さらに、教職員に対して情報セキュリティ研修を実施する。機構本部主催のインシデント対応訓練等に参加して、教職員の情報セキュリティ意識の向上に努める。	④ 情報セキュリティトップセミナーに参加した。また、情報セキュリティのe-learningを実施した。機構本部主催のインシデント対応訓練も実施した。	◎:既に達成している	
⑤ 機構本部の最高情報セキュリティ責任者及び情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の連携による情報セキュリティ対策等について、本校に適切に導入を図る。	⑤ 機構本部から連絡がきたものは対応している。	◎:既に達成している	
⑥ 機構本部CSIRT等によるインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を受け、本校の教職員に周知するとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の教職員、学生への周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。	⑥ インシデント対応訓練の実施において、周知を行った。	◎:既に達成している	
7. 4 内部統制の充実・強化 該当なし		該当なし	